

## 都議会第3回定例会

都立病院の独法化条例案、  
補正予算5750億円など可決

都議会第3回定例会では、会期中の中途議決分も含め、コロナ対策を中心とした5,750億円が可決・承認されました。

現在コロナ患者受入れの主力となっている都立病院・公社病院の来年7月の地方独立行政法人化を目指した条例改正案については、コロナ禍の中で現場を混乱させる制度改正を性急に進めるべきではないとの立場から反対しましたが、賛成多数で可決しました。

私は、会派代表質問の内容のうち、ジェンダー予算と性教育、羽田新ルート問題を担当。経済・港湾委員会では、コロナ禍での中小企業支援や再就職支援などについて質問しました。また、発声障害に対する学校での周知徹底について文書質問を出しました。

また一般質問では、立憲からは齊藤りえ議員（大田区）と五十嵐えり議員（武蔵野市）が登壇。齊藤議員は都議会では初めての、聴覚障害がある議員として、音声読み上げ装置と音声の文字化アプリなどを使って一般質問を行い、多様性が生かせる東京づくりなどを求めました。



## 【可決した主な補正予算】

・コロナ患者受入れ病床確保	1918億円
・軽症患者向け宿泊療養施設	373億円
・自宅療養者向け支援	195億円
・酸素・医療提供ステーション設置	98億円
・飲食店への協力金（10月分）	2283億円
・中小企業者への月次支援金	103億円

## 会派の主な代表質問

**Q オリンピックパラリンピックの評価と総括、大会費用の全体像と詳細を明らかにすべき。**

A（知事）大会は安全に行われた。（局長）経費は精査を進めており、関連経費も予算・決算で明らかにする。

**Q 都は医療体制9200床と発表した軽症者向けの酸素ステーションなども含んでおり、医療設備のある病床・施設の確保を。**

A（知事）症状に応じた病床を確保。課題を検証し、次の取り組みに生かす。

**Q 高校生への1人1台パソコンへの支援は低所得家庭に手厚く、また都立に限らず私立高校にも支援を行うべき。**

A（教育長）都立は既存の給付型奨学金制度を活用、私立にも検討を進める。

**Q 東京都子ども基本条例を踏まえ、子ども政策専門部局の創設を。**

A（局長）様々な課題に対応できる組織の在り方の検討を進め、体制を構築する。

**Q カジノ計画の政府への申請期限は来年3月。東京へのカジノ誘致は断念を。**

A（知事）メリット・デメリット両面から総合的に検討している。

## 会派の動き

## ●東京しごとセンターなど視察

都議会立憲民主党は10月12日、大規模改修のための予算案が計上されていた飯田橋の「東京しごとセンター」を視察しました。改修の目的と必要性を確認したほか、



コロナ禍での利用者数の動向やオンラインでの職業訓練の状況などヒアリングを行いました。

## ●都議会立憲 議会改革PTを立ち上げ

議会内に「都議会のあり方検討会」の設置が決まったのを契機に、会派内にも議会改革プロジェクトチーム（PT）を立ち上げました。議員歳費の問題にとどまらず、会議の運営や資料提供の方法など幅広く議論していく予定です。

## 10月の主な日程

9月28日～10月13日 都議会第3回定例会

18日～11月19日 東京都各会計決算審査

19日～11月22日 東京都公営企業会計決算審査

\*私は公営企業決算会計審査のメンバーになりました。